

委託販売制における 出版取次の役割についての考察

IT会計ビジネス科 赤羽涼風

目次

1. はじめに
2. 出版業界と委託販売制
3. 書籍小売店の収益構造
4. 仕入れ販売制のメリットとデメリット
5. 書店と直接取引を行う出版社
6. 書店としての改善点
7. 結論

1.はじめに

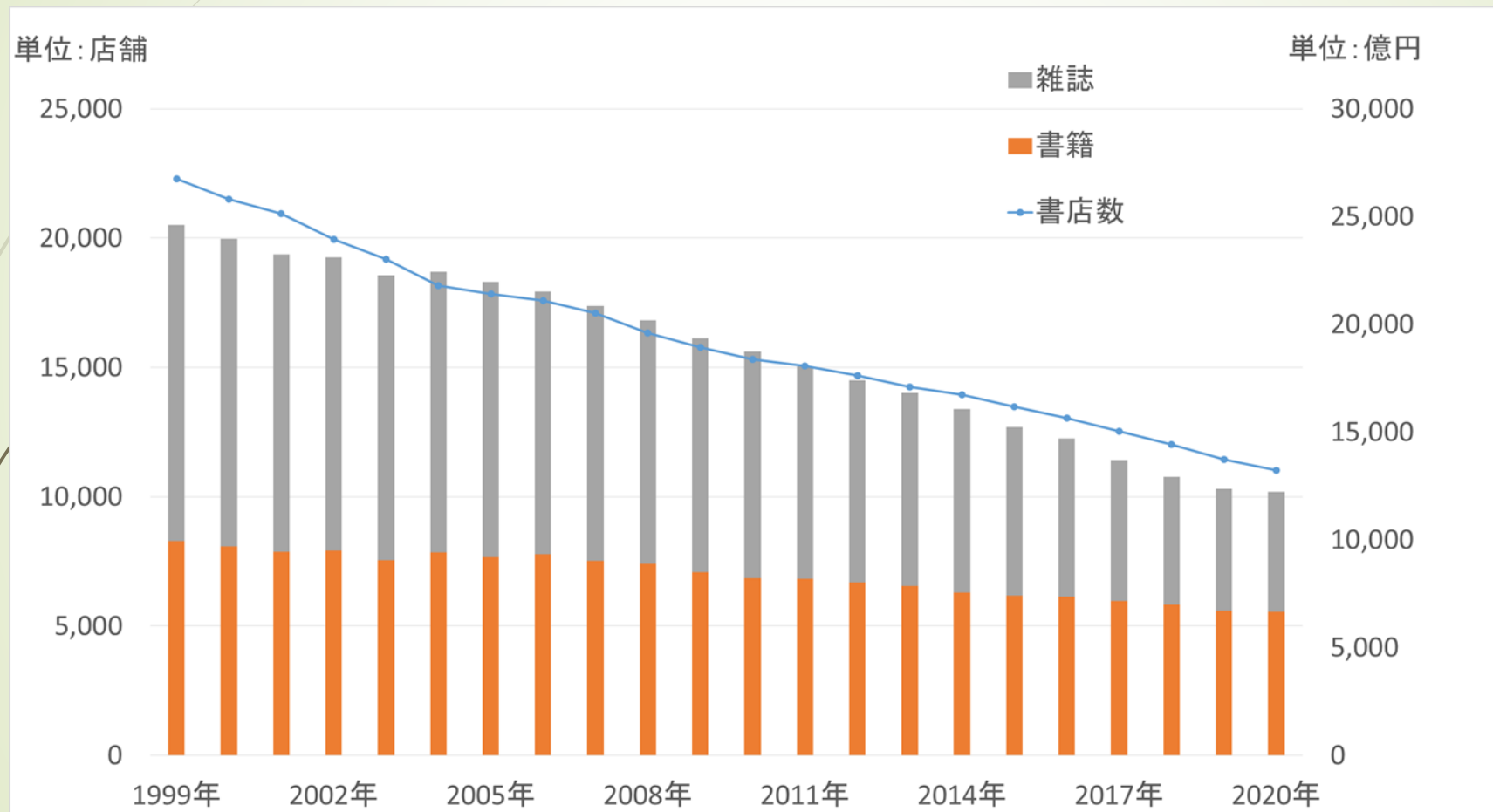


図1：書店数と出版物推定販売金額 出典：出版科学研究所（2020）等を基に筆者作成

1.はじめに

書店数と出版物販売金額の減少原因



日本独自の委託販売制を採用

- ✓いつから始まったのか
- ✓出版業界への影響

2. 出版業界と委託販売制

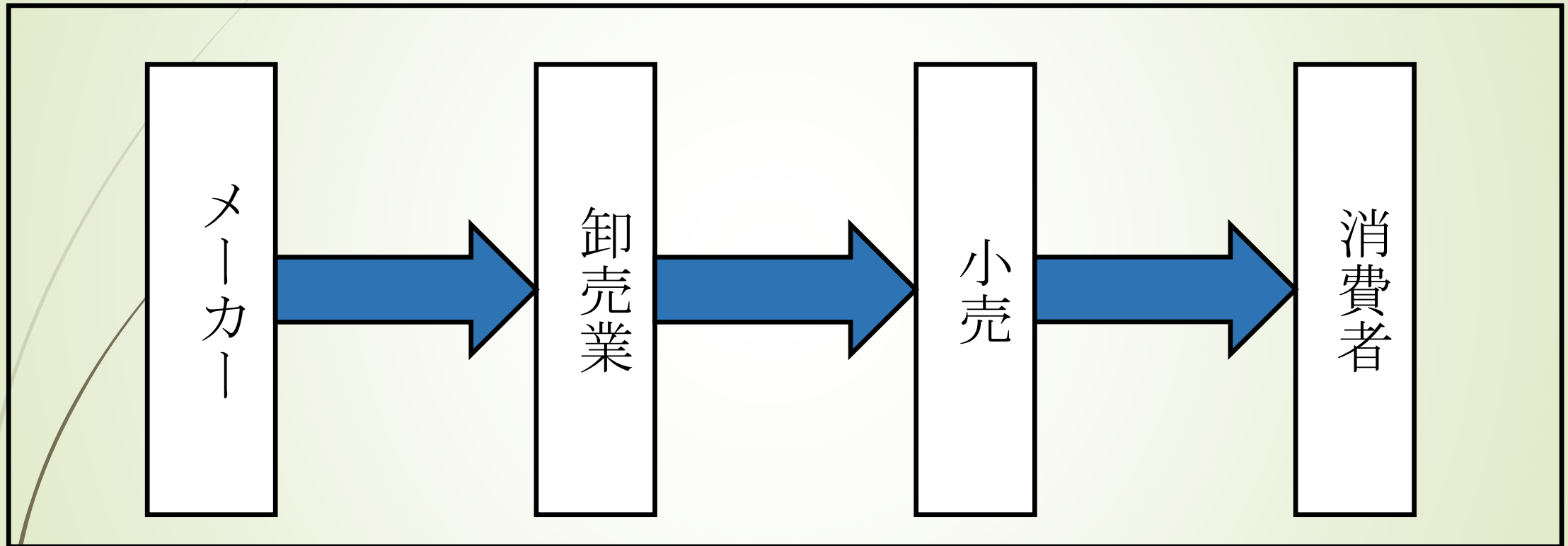


図2：一般消費財の流通構造 出典：筆者作成

2. 出版業界と委託販売制

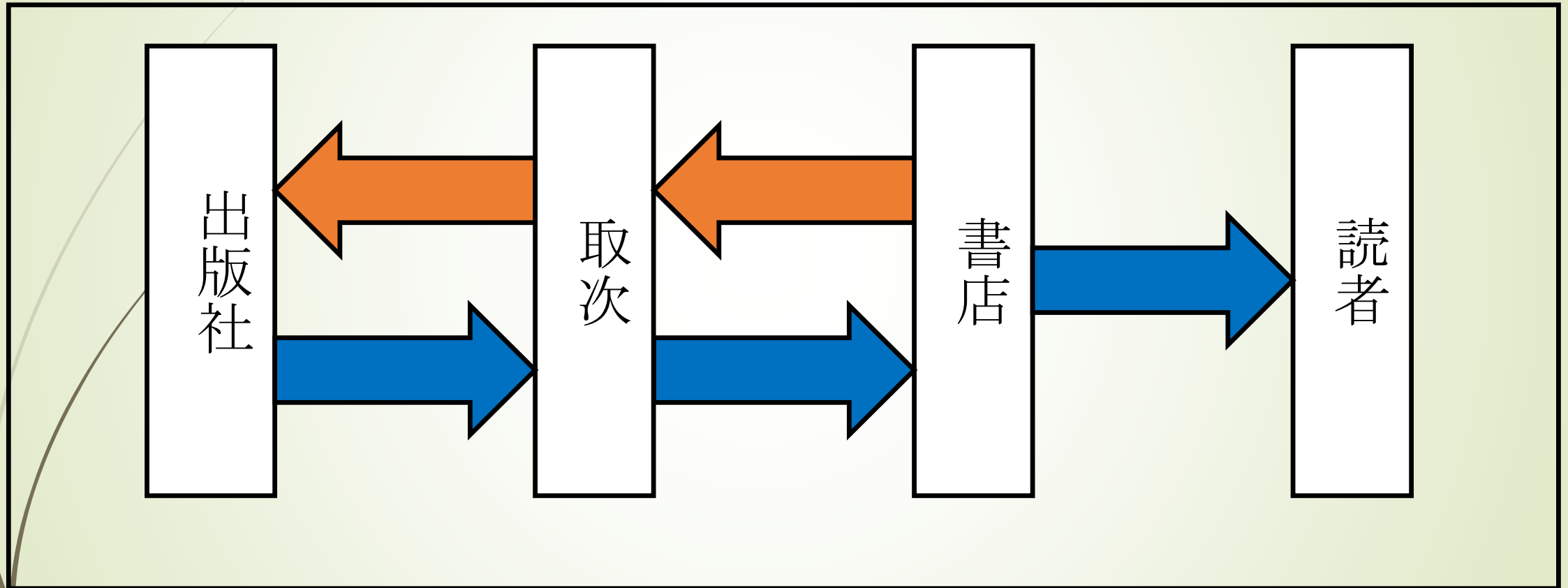


図3：出版物の流通構造 出典：出版科学研究所（2020）を基に筆者作成

2. 出版業界と委託販売制

■ メリット

- ✓ 買い取り仕入を行わないことで多種多様な書籍・雑誌の取り扱いが可能
- 発行部数の少ない学術書なども、書店の棚に並べることができる
- ✓ 注文しなくても送られる「見計らい本」がある

2. 出版業界と委託販売制

■ デメリット

- ✓ 小さい書店に配本される冊数が限られる
 - ✓ 一社にかかる負担が大きく、破産してしまう取次会社もある
 - ✓ 売れずに返本される書籍は全体の35～50%
- 資源の無駄という観点から、SDGsの12番に当てはめることができる

2. 出版業界と委託販売制

出版社
約3,000社

取次
約100社

書店
約10,000社

ひょうたん型



3.書籍小売店の収益構造

■ 出版社 ■ 取次会社 ■ 書店



図4：書籍販売時の収益構造

出典：経済産業省商務情報政策局 文化情報関連産業課（2003）を基に筆者作成

4.仕入販売制のメリットとデメリット

▶ メリット

✓ 小売店の利益が大きい

→書籍を買い取ることが条件のため、売れば確実に収益が出る。

4.仕入販売制のメリットとデメリット

■デメリット

- ✓ 売れ残った場合に費用が掛かる
- ✓ メーカーとの取引に人手や時間を取られることがない

5.書店と直接取引を行う出版社

出版社名	取次店	直販	委託	買切
第一法規	10	90	20	80
実教出版	90	10	10	90
岩波書店	98	2	0	100
南江堂	65	35	6	94
研究社	100	0	0	100
学事出版	72	28	0	100
医道の日本社	20	80	20	80
ミュージックトレード社		90	20	80
光生館	90	10	0	100
地球社	50	50	0	100
エンデルレ書店	80	20	5	95
一莖書房		30	10	90
日本加除出版	5	95	0	100
邦楽社	96	4	0	100
医学の世界社	50	50	0	100
大創出版	0	100	0	90

表1：出版社における取次と直販の比率

出典：矢野経済研究所（2008）を基に筆者作成

5-1.株式会社ディスカヴァー・トゥエンティワン

- ▶ 1985年設立
- ▶ 2019年2月時点で2430点の出版物を発行
- ▶ 全国の書店5000店以上と直接取引を行う

5-2.株式会社ミシマ社

- ➡ 2006年設立
- ➡ 卸正味70%で書店との直接取引を中心に行いながら、取次を介しての注文も受けている
- ➡ 書籍注文のプラットホームサイト「一冊！取引所」に参加している

6.書店としての改善点

▶ 株式会社紀伊国屋書店

2015年9月に株式会社スイッチ・パブリッシングより発行された『職業としての小説家』（村上春樹）を、買切りで仕入れを行った。

6.書店としての改善点

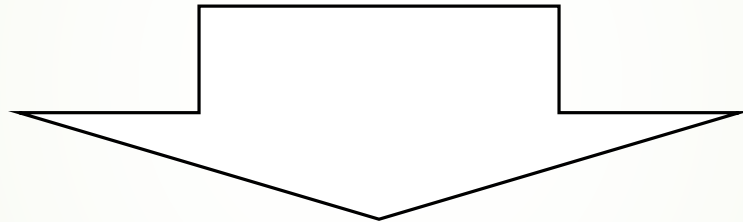
■カルチャア・コンビニエンス・クラブ

2019年にコミックス以外の書籍とムックの全商品を買切りという形で仕入れを行うと発表。

2018年度下期に全商品を対象に買切り制を導入したところ、返品率が9%低下し、売り上げは34%増加したため、それを継続することとした。

7. 結論

出版業界において委託販売制は書籍返品率を高め、中小書店が減少する影響を及ぼしている。



取次会社を介さずに取引が可能な書店は大企業が多く、中小書店は取次会社に頼らざるを得ない。

7. 結論

- ➡ 中小書店は取次会社を介して委託販売制を採用する出版社と、買切り制を採用する出版社と直接取引をそれぞれ行うことを提案

より多く利益を得るためには
可能な範囲で買切り制を採用する必要がある

参考文献

- ① 日本書籍出版協会『日本雑誌協会 日本書籍出版協会 50年史：委託販売と取引問題』日本雑誌協会、2007年
- ② 出版科学研究所「日本の書店数（総書店数・総売り場面積）」（2020年5月1日）

<https://shuppankagaku.com/knowledge/bookstores/>

参考文献

- ③ 出版科学研究所「出版業界を支える制度（再販制度と委託制度）」（2021年11月19日閲覧）

https://shuppankagaku.com/knowledge/resale_entrust/

- ④ 出版科学研究所「日本の出版流通の特徴と主な流通ルート」（2021年11月19日閲覧）

https://shuppankagaku.com/knowledge/market_route/

参考文献

- ⑤ ダ・ヴィンチニュース「出版流通の危機を読み解く
① 取次という仕組み—日本は出版天国でした〈文化通信コラム第2回〉」 (2018年4月11日)

<https://ddnavi.com/column/441847/a/>

- ⑥ 株式会社東京商工リサーチ「2019年(1-8月)「出版業」の倒産状況」 (2019年9月27日)

https://www.tsr-net.co.jp/news/analysis/20190927_02.html

参考文献

- ⑦ 矢野経済研究所『2008年版 出版社経営総鑑』矢野経済研究所、2008年
- ⑧ 株式会社カルチュア・コンビニエンスクラブ
「ニュース：TSUTAYA書籍・雑誌 2018年年間販売総額1330億円 過去最高を更新」（2019年3月14日）

https://www.ccc.co.jp/news/2018/20180314_001407.html

参考文献

- ⑨ 株式会社ディスカヴァー・トゥエンティワン
「会社情報：事業内容」 (2022年2月10日閲覧)

<https://d21.co.jp/company/service>

- ⑩ 株式会社ミシマ社
「会社概要」 (2022年2月10日閲覧)

<https://mishimasha.com/company/>

参考文献

⑪ 株式会社カランタ

「一冊！取引所（一冊！取引所とは）」株式会社カランタ、（2022年2月14日閲覧）

<https://1satsu.jp/about/>

⑫ 経済産業省商務情報政策局文化情報関連産業課

「出版産業の現状と課題：（参考）出版流通の仕組み（取引形態）」文化情報関連産業課（2003年7月）

等